

事後評価点検表

事業名	地域総合オアシス整備事業（泉南地区）								
担当部署	泉州農と緑の総合事務所 耕地課（連絡先 072-439-3601 内292）								
事業箇所	泉南市樽井 他								
内容	<p>事業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>ため池改修</td> <td>8箇所</td> </tr> <tr> <td>水路整備</td> <td>1箇所</td> </tr> <tr> <td>遊歩道整備</td> <td>1式</td> </tr> <tr> <td>親水・景観整備</td> <td>1式</td> </tr> </table>	ため池改修	8箇所	水路整備	1箇所	遊歩道整備	1式	親水・景観整備	1式
ため池改修	8箇所								
水路整備	1箇所								
遊歩道整備	1式								
親水・景観整備	1式								
関連事業とその現状									
社会経済情勢の変化	<p>本事業は、金熊寺川水系の主要なため池及び水路において、築造以来長い年月を経て老朽化が進んでいる施設の改修を行い、洪水時における決壊や溢水などによる災害を未然に防止し、安全なまちづくりを進めるものである。</p> <p>併せて、オアシス構想に基づき、住宅地に近接する一部のため池について、修景護岸や遊歩道の整備を含めた総合的な整備を実施し、地域住民に「うるおい」と「やすらぎ」をもたらす快適な水辺環境の整備を実施した。</p> <p>事業期間 平成5年度～平成17年度</p> <p>本事業に関連する主な社会経済情勢の変化について、以下に記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手である基幹的従事者について、65歳以上の占める割合が増加しており、さらに今後も高齢化が進み、担い手の減少が推測される。 ・温暖化による気候変動や局地的豪雨に対する懸念、水や食料の安全性や生物多様性など、環境の保全に対する関心が高まっている。 ・農業、農空間に対する施策については、平成22年3月30日に閣議決定された新たな「食料・農業・農村基本計画」において、都市農業の振興に関し、都市農業が有する機能や効果が発揮できるよう、守り、持続可能な振興を図るとされた。 ・農空間は、農業用水源としての役割だけでなく、災害時に水や空間が利用できる地域防災施設としての機能や、生態系保全、自然学習、レクリエーションのための空間としての機能に対する府民の関心と要望が高まっている。 								

事業実施による環境の変化	<p>金熊寺川下流に位置する本地区は、古くからため池を用水源として、水田農業を営んできた地域で、水稻の他に玉ねぎ、里芋、キャベツ等が作付けされており、中でも玉ねぎの一大生産地を形成している。</p> <p>従来から、本地区のため池群は農業生産の主要な水源であるとともに、防火用水、生活用水等の地域用水源として、重要な役割を担っていたが、施設の老朽化や農業従事者の高齢化により施設の維持管理が困難な状況となっていた。</p> <p>また、周辺の市街化が進む中、生活雑排水等の流入によるヘドロの堆積、悪臭など地域環境の悪化の原因となっていた。</p> <p>本事業の実施により、老朽化した取水施設が更新され、農業用水の安定供給や、維持管理の省力化が図られ、地域農業の安定化に寄与し、地域の主要な農業生産地である本地区の保全が図られた。</p> <p>また、堤体や余水吐の改修により、堤体の決壊や溢水による災害を未然に防止し、地域住民の安全・安心な生活環境が確保された。</p> <p>また、堆積したヘドロの撤去により、地域環境が改善されるとともに、一部のため池において、遊歩道や親水・景観護岸も併せて整備され、地域と調和のとれた景観形成が図られたことにより、ため池への訪問者数が増加するなど、地域住民に「うるおい」と「やすらぎ」をもたらす快適な水辺空間を形成した。</p>
最終評価時の意見 具申と府の対応	<p>「意見具申」</p> <p>事業の継続の必要性が認められ、かつ、事業進捗上も特段の支障が無いと考えられるため「事業継続は妥当」と判断する。</p> <p>計画的に工事進捗していることから、投資効果の面からも事業を早期に完成させることが必要。</p> <p>「対応方針」</p> <p>事業に必要な予算を確保し、早期に事業完成を図る。</p> <p>「具体的な取組み内容」</p> <p>予算を確保し、事業の早期完成を図った。</p>

	【最終評価時点 H16】	【事後評価時点 H22】	【分析】
事業費	19.9億円	19.3億円	発生残土の場内処分等のコスト削減や入札差金に伴う減
①事業期間 ②採択年度 ③着工年度 ④完成年度	① 13年 ② H5年度 ③ H5年度 ④ H17年度	① 13年 ② H5年度 ③ H5年度 ④ H17年度	最終評価時から延伸はない
費用便益分析	○費用便益分析 B/C=3.12 ○便益総額 B=61.9億円 ○総費用 C=19.9億円	○費用便益分析 B/C=3.16 ○便益総額 B=60.9億円 ○総費用 C=19.3億円	・ため池・水路の改修により災害防止効果が発揮された。 ・オアシス構想に基づく総合的な整備により、快適な水辺空間が、保全・創造された。
定性的効果	(安全・安心) ・老朽化したため池及び水路を改修することで、洪水時における堤体の決壊や溢水被害を未然に防止し、安全な生活環境が形成される。 (活力) ・農業用水の確保を図ると共に施設管理の省力化が図られ地域農業の振興に寄与する。	(安全・安心) ・老朽化したため池・水路が改修されたことにより、安全な生活環境が確保された。 【全ため池】 (活力) ・農業者の担い手の高齢化が進む中、取水施設等の整備により、維持管理の省力化が図られ、地域農業の振興に寄与した。 【全ため池・水路】	初期の目的を達成。 初期の目的を達成。

定性的効果	(快適性) ・水と緑豊かな水辺環境の創出により、良好な生活環境が形成される。	(快適性) ・遊歩道整備等に伴い、府民がため池等の水辺に接する機会が増えたことによって、生活環境の改善が図られた。 【君ヶ池】	・訪問者一人当たりの週訪問回数が増加した。 週平均訪問回数 整備前 2.0回/人・週 整備後 4.2回/人・週 また、利用者の85%が整備により生活環境改善が図られたと感じている。 (H22.3聞き取りアンケート結果) ・ため池堤防の遊歩道等の利用状況調査結果 平均 310人/日
	(その他) ・歴史的文化遺産であるため池が保全された。	(その他) ・ため池が保全されるとともに埋蔵文化財調査を実施することにより、文化財の保全に寄与した。 【双子池】	初期の目的を達成
その他特記事項	本事業は、ため池が群となっている地域において、河川の水系ごとにつながっているため池を総合的に整備し、広範な地域の防災対策、環境整備を重点的に行うものである。事業完了後の清掃や補修等施設の維持管理は、地域住民や地元水利組合が行う。		
評価結果	・ため池や水路の改修により、決壊及び溢水による被害防止や農業用水の安定供給、維持管理の省力化が図られ、事業目的が達成された。 ・オアシス構想に基づく総合的な整備の実施により、快適な水辺環境が保全・創造され、現時点においても、多くの住民に利用されており、事業目的が達成された。		
今後の同種事業に対する改善措置等	・厳しい財政状況の中、ため池改修計画に基づき計画的・効率的な予算を配分し、防災効果の発現や生活環境の改善がなされるよう努める。 ・完成後の維持管理や地域住民の自発的な活動を定着させるために、計画立案時より整備のあり方や組織づくりについて、関係者と十分協議する必要がある。		